

ストーブ火災の 7 割を占める 電気ストーブにご用心！



寒さがだんだんと本格化してくるこの時期。「火を使わないから安心」、「給油の手間がいない」、「軽くて持ち運びが楽」という理由で、電気ストーブや温風ヒーターなど、電気をエネルギー源とする暖房器具を重宝する家庭が多いようです。

しかし、毎年寒くなり暖房器具が活躍し始めると発生するのがストーブ火災。中でも全体の7割以上を占めるのが、電気ストーブを原因とする火災なのです！

■火災事例 1

受験勉強真ただ中の学生が塾から帰り、1階で食事を済ませ、自室で勉強をするため2階へ。寒々とした部屋を暖めるため電気ストーブのスイッチを入れ、「部屋が温まるまで」と思いベッドに横になると、毎日の勉強疲れで睡眠不足だったためか、あっという間に深い眠りに入りました。

部屋が温まると暑くなり、無意識にはねのけた布団がストーブにかかり着火し、火災となりました。

また脱衣場を暖めるために電気ストーブのスイッチを入れ、その場を離れて別の部屋にいたところ、洗濯前の衣類が接触していたため火災になった事例もあります。



■火災事例 2

無人の室内でロボット掃除機を使用していたところ、電気ストーブがロボット掃除機に押されて移動し、ベッドや家具などの可燃物に接触して焼け焦げてしまう火災が発生しています。

ロボット掃除機を使用する場合は、思わぬことで火災につながってしまう恐れがありますので注意してください。



■その使い方、大丈夫？

間違った使い方火災に

電気ストーブの上に物を置いたり、洗濯物を干した。

⇒空気の対流で、揺らいだカーテンや落下した洗濯物に着火。

電気ストーブのそばに、可燃物やカセットコンロのボンベを置いていた。

⇒カセットボンベが熱せられ爆発。

スイッチを OFF にした電気ストーブの上に、物を掛けていた。

⇒電源コードがコンセントにささったままだったため、何らかの拍子にスイッチが入り着火。

電気ストーブをつけたまま寝た。

⇒最も多い火災事例で、寝返りなどでストーブに布団が接触して着火。

【令和3年町内の火災等発生状況】

発生区分	9月中	累計	
火災	建物	0	3
	車両	0	0
	林野	0	0
	その他	0	1
警戒出動	4	18	
救急出動	112	1055	
救助出動	1	10	

問 益城西原消防署 ☎ 286-2119